明治廿五年二月廿七日印刷
明治廿五年二月廿七日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第貳拾七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第貳拾七號目次

◎演説

◎會員への注意　文學博士加藤弘之君

◎天然痘の話　醫學士　岡田和一郎君

◎本會錄事

◎會告　數件

保育園規則摘要

位置 本園は麹町區一番町十二番地に設置す

目的 世間往々自宅にて嬰兒を保育しかぬる事情あるを以て其人々の依托に應じ容易く保育の便を圖るものとす

整理 本園は小兒科及衛生家中有名の諸大家に就き鞠養保育の方法及嬰兒の健否を謀り一切の庶務ハ本會役員の監督に屬するものとす

園兒 入園を許諾する嬰兒ハ生後三十日以上とす但現に疾病に罹れる者殊に傳染病を患ふる者ハ一切謝絶するものとす

食物 保育兒の食物ハ衛生の原則により各年齢に從ひ適當の調理をなすと雖哺兒乳ハ精撰の牛乳を以て養育するを常則とす

入園料 特等一ヶ月金七圓並等金五圓とす

但會員の照介にかゝる貧困の嬰兒は慈善のため保育救助することあるべし

目下欠員あり規則書御熟覽の上速に御申込ありたし

大日本婦人衛生會附屬　**保育園**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第廿七號　明治廿五年二月發兌

講演

◎會員の心得に就て

文學博士　加藤弘之君演說

私は、醫師では有りませぬから、衛生上の事は何も知りませんが、今日は久しぶりで出ましたから、前座の積りで鳥渡御話しを致します。併し御話しする程の價値も無い位ゐの事で御座います。今日は外にお話をなさる先生が定まつて居ッたさうですが、其先生方も來られるか未だ分らぬ、併し長與さんと宮本さんがお在でありますから、此方らは本商賣の事でありますから、後で何か有益の御話しがありませうが私は衛生の事は知りませぬ上に從來も度々出ましたから、モウ何もお話する事が無い、併し久しく出ませんでしたから、今日は御無沙汰見舞旁廿五年の春でありますから出ましたので御座いますが、別段にお話を仕樣と云ふ事柄も無い、其上衛生上の精細の事は知らないが、唯衛生の大切なる事は知つて居る實に教育と衛生との大切なる事は知つて居る、然して其二つは御婦人方の任で何方も大切の事でありますけれども、衛生の事は御婦人には尚更手近の事であらうと思ふ。一家の衛生、即ち各自住所の衛生と云ふものは、男子が注意して往くよりは婦人方が氣を附けるのが大切であらうと思ふ。子供を育てる事、或は臺所向きの取締は、奥樣が主になさらねばならぬ。ソレ等の事は日々怠らず氣を附けてなさるは婦人の大切なる務めで有る

ソコで今と昔と比較して見ますると、以前は日本の人々の腦裏に、衛生と云ふやうな考へは殆ど無かつた、病氣になれば、醫師に見ては貰ひますし、常々食べ過ぎてはならん、飲み過ぎてはならんと云ふ位

ゐの事は申して居りましたが、病氣にならぬ樣に心懸けると云ふ程の考へは無かつた。それ故子供を育てるにも育て方が違つて居つた食物を拵へるにも、滋養になるやうなものを擇ぶと云ふ考へはなかつたので有りますが、漸々世の中が開けると共に理屈が解つて來た故に、女の方にも能く此理屈が解らなくてはならん、男は主に係はらぬ事ですから（解つた所が婦人程は役には立たない）衛生の最も重ずべき事は男の方には能く解つて來たが、女の方には男子程に解つて來ないから困る、理屈の少しも解らぬ時であれば、何も彼も無鐵砲でやるから、濟むか少しでも解つた上は、ソレを實地に應用して往かなければならぬのである、斯くの如く衛生會と云ふものは男子よりは女に向つて大切で有る……。此事は是迄出ました時に、度々お斷しを致したけれども、先刻申す通り斯う云ふ事は惡るい斯う云ふ事は好いと云ふ事に至つては、私にも少しも解らぬ貴婦人方と同じく素人であるから、矢張り醫師諸君のお咄しを伺はなければならんので御座いますが、唯衛生は最も婦人に大切で有ると云ふ理屈丈けは分つて居る。夫故衛生會には、成丈け婦人方の余計御集りになる樣にしなければならぬ、其中にも上等の方々よりは、寧ろ下等の人々に余計御醫者樣の講釋を聽かせる樣にするが宜しい、何故かと云ふに、上等の人より下等の人の方が衛生の行屆かぬと云ふとは分り切つて居る、上等の人は、日常の食物も宜しいし、腐敗した物を喰ふ事も、消化の惡いものを喰ふ事も無いが、下等の人は兎角惡いと知りつゝ少し位腐つたものも喰ひ、消化の善惡も考へずに、食するものが有る。

それから住所を清潔にして、風通りをよくすることも、下等の人には出來ない、下等社會に流行病の多

いのハ、つまりさう云ふ所から主に病氣が起るので有りますから、さう云ふ下等の人に、衛生の話しを聽せたなら、大變に利益する事が多いと信じます、故に本會にハ下等の人が成るべく多く入會する樣にしなければなりません。固より衛生と云ふ事ハ上等の人にも大切でハあるけれども、下等の人に最も大切であるから、下等の人が入會するとが出來る樣に、皆樣が御盡力なさらなければならん。然るに上等の人と下等の人とハ自から境界が別であるから、上等の人が會員に多くつて下等の人の方が少ない、それに就て、實はお咄しをしたいと思ふのハ一体衛生會は悪病等の流行らぬやうに豫め其豫防をする事に骨を折る趣旨で有るから、動もすれば病氣を發す本となる下等の人に、能く衛生の行渡るやうにするにハ、下等の人と交際をする樣にしなければならぬ。上等は上等、下等は下等と別にして置いてハ、到底衛生の普及を期する事ハ出來ないそれにハ。衛生會に毎月お出になる御方は、成る丈け華美な風姿をするのを止めて、大抵お家に被入るのも同じ位ゐの風姿で、心易く出られるやうになさらなければならぬ、一体婦人はどうも着物を飾り、風姿を飾ると云ふ事が習慣であるから、皆樣も其習慣に從はれて、余り立派な風姿をなさると、下等の人ハ夫に準じて着飾る事が出來ぬから、先づ出る事が六ケ敷くなる、ソレ故衛生會に出て、良い咄と聞くハ望みで有るけれども、傍の人が余り立派にして居ると、折角の能い咄しも聽く事が出來ない、一体男子は格別風姿を構はぬが、婦人の着物を飾ると云ふ事は唯日本許りでなく、何處の婦人も風姿を飾ると云ふ性質を有して居るもの故、下等の人を成る丈け多く此會に入れるにハ、上等の人が出來るだけ質素の風姿で、鳥渡近所にでも往く位の身飾にしなければならぬ風姿を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

競ふ場所にハ幾らでも立派になさるが好いけれども、此會の性質はそうでないから、成るたけ下等の人を入れて衛生の道理の解る樣にするにハ、余計人を集め衛生の行はれ惡い下等の人を會に入れて、及ぶ丈け盡力して衛生の周く普及する樣に計るには、下等の人にも共ふ、交際する事の出來る樣にせねば往けますまいと存じて、前々より度々出てお咄を致します、此衛生會では徒らに風姿を飾ると云ふやうな事は無からうと思ッて居りますが、私ハ衛生のお咄しの外に、單に素人の分限として、衛生會を盛にするには、サウ云ふ風にしなければなるまいと存じます、身分の善い人も惡い人も、一緒になッて御咄しをし相談を致さうと云ふには、下等の人を余計會員に入れなければならんソレには、下等の人が上等の人と一緒に出ても氣安いやうにしてやらねばならん、夫故貴婦人方も余り風姿抔を飾らず、何事も質素にして御出になるが必要で有る。「一度衛生會に往ッて見たが、余り皆樣が御立派でわつたから、今度は前の樣な不都合の風姿でハ出られない、好い着物がなければ往かれぬと云ふ樣に、互に着物の競爭をする樣になッては是きか着物の會とでも言へば宜しいが、衛生會としては誠に不都合なる咄しであります。

此事は度々申し上げたのですが、久しく斯う云ふ咄も致しませんでしたから、今日も矢張り相替らず此位の事で、前座の責を塞いで置きます、今度は專門の先生方から、いろ〳〵衛生上の御咄しを御聽きになッたら、嘸かし有益の事があらうと思ひます。

◎天然痘の咄

醫學士　岡田和一郎君演説

天然痘の御話を今日致しまするハ時節柄必要と思ひますから之を鳥渡申上げます、此天然痘と云ふもの

ハ、隨分恐ゐ病氣であります。近頃ハ幸にして疱瘡と云ふ病氣が大變少なくなつて。恐ゐものと云ふ事ハ古昔から解りて居つても、世間の人が恐ゐと云ふ事を實際知らない位いになつて居る。併しながら此病氣の恐ゐと云ふ事ハ、往昔から此病氣で死たる人の多いと云ふことを知つたならば、一番早く解る。古へハ死亡者全体の十六分の一位ゐハ、此天然痘の爲に死んだと云ふ統計表があります位に。世に澤山死たる人はありますけれども其十六分の一程は皆何れも疱瘡に罹つて死にましたのであります。隨分日本當りでも、往昔此種痘と云ふ事が始まらぬ前にハ年々疱瘡が流行て、是の爲めに死ぬる人が澤山あつて、幸ひにして死ぬる事を免れても一旦疱瘡に罹つた人は、折角天然自然に奇麗に生れて來た所の人でも、皆疱瘡の爲めに非常に醜ひ面にあり、立派に生れて來て身体が恐く具つて居るも、眼の潰れたり耳が聞へなくなつたり、所謂不具者となつて、折角兩親ハ奇麗に、生み附けて呉れたものを、徒らに此病氣より不具者になつて、一生涯不幸の淵に沈んだ人が澤山あります、實に疱瘡と云ふものハ恐い病氣であります。只今申したる、通り死ぬる事があるから恐いと云ふのでなくして、死ぬる事を免れても不具者となつて、生れも附かぬ不具者になつて、一生涯生活する事になるから、實に恐しい病氣であります扨此病氣は先年中暫くの間なかつたけれども今年は如何なる工合か知りませんけれども、日本にも大層烈敷發こつて參りました、只今の所では日々數百人の患者を出して死ぬる人も不具者となる事も澤山ある時節になりました夫じやからして世の中に衛生會と名の附くものハ、皆此疱瘡の發らぬやうにと、色々策を講じて、種々に手段を盡して居ります、吾婦人衛生會に於てもどうか、此疱瘡と云ふ惡い奴が發

つて參つた今日であるから、疱瘡と云ふ病氣は何んなものであるか、之を豫防するにはどう云ふ風にすれば、宜しいか又疱瘡はどれ程までに、恐れなければならぬかを、皆様に考へて貰ひさうして、出來る丈の豫防を盡して、此病氣に罹らぬ様にするのが衛生會の目的であらうと思ひますから私は今日疱瘡の事に就て悉しく申上げ様と思ひます。

扨て此疱瘡と云ふ病氣は最も恐い傳染病であります

○急性の傳染病であります。即ち人から人に傳染て往く所の恐い病氣であります、其傳染つて往く病氣即ち傳染病であるから、必ず其病氣に毒がなければならない即ち人に傳染つて往く毒がなければならぬ

○其毒の事に就ては豫て此衛生會の皆様から演說がありましたらうし、又私も言つた事がありますが、矢張り其活た蟲みた様な彼の「バチルレン」と云ふものが人に傳染つて、人の身体に這入つて病氣を起すのであります、扨て其病毒が疱瘡を病だ人のどこにあるかと云へば疱瘡は唯だ一つの腫物であるが、其腫物の膿の中にあるのであります、疱瘡を病んだ病人の身体には必ず腫物が出きる、其腫物の膿の中に、蟲が居るのでありますさうして、其蟲が膿の中にあつて、其膿が人にクッついて、人の身体に這入つて病毒になるので御座います、併し世の中に此傳染と云ふものが傳染るに就ては、或は人の唾で傳染ると云ふこともあるし、或は御婦人方の乳汁から、傳染る事もあるし、或は又尿便糞便、夫れから涙、汗と云ふ様に、身体の外に出る汁から、病氣が傳染る事があります。けれども此疱瘡の病毒は、斯様な品物から決して傳染らぬのであります、疱瘡を病んだ病人の唾とか、或は汗とか、尿便大便等を調べて見ても、斯様な品物の中には一向病毒はありません、又疱瘡を病んだ人の血液の中に病毒があるかと

云ふ疑を起してさうして調べて見ましたけれども、それも病毒が有るの無いか未だ確かに解りませんけれども血液によつて疱瘡が傳染つたと云ふ事も今日まではありませんから是も今は傳染らぬと云ふ説が多いやうで御座います、故に疱瘡に就ては傳染るべきものは即ち恐れべきものは、腫物の中に在る膿のみにして、彼の中に必ず病毒が有ると云ふ事は、今日學者が皆信じて居る所であります。それから疱瘡の病毒の傳染のは膿であるから、其膿にだに觸るゝ事がなかつたならば、疱瘡に罹かる事はないかと申しまするを、決して左樣ではありません、膿の中に毒病が有つて、其病人の周圍の色々の品物、或は器具や其他種々の物に病毒が附着て居る事が有る、腫物が破れると、其中に居る蟲がぞろ〳〵這ひ出して來るから、病人の着て居る着物や、或は寢床或は茶碗とか「コップ」じやとか云ふやうな品物に、皆病毒が附着て來る其外病人の寢て居る部屋の空氣の中に病毒が蔓延つて居る。夫故に假令病毒の有るのは膿の中に極つては居るが、外に附着して來ることがあるから、好し其膿に觸れずとも、其中の空氣と呼吸し、或は品物に觸れたならば遂に天然痘に罹かると云ふ事が起りて來ます、加之ならず直接に其中の空氣或は品物等に觸れる等の事なくも、知らず識らず其病毒に感ずることが有ります。それは如何なる場合かと云へば、爰に一人の病人が有つて、其病人を譬へば私なら私が診察する、診察して私が病毒を持てさうして次の病人を診ると、私は疱瘡に罹らずして、私が前に診た病人の病毒を次の病人に傳染す事がある。それ、如斯醫者が媒して持て往く事もあり又看病人が媒介人となつて次の人に傳染す事もある。故に最初私が申上げし如く、病毒のある處は膿に、極つて居るけれども知らず識らず其病毒に觸れ、色

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く々の方法に依て人の身体の中に這入る事があるから決して、病人の側に居て膿に觸ると云ふ事を防いだばかりで、病毒に罹からぬと云ふことを保証することハ出來ません。必ず天然痘の流行する時にハ、常に色々の方に向つて注意を加へ、此毒に罹らぬやうに注意をしなければならぬ。

扨て此病毒が人間の身体に這入るのは、如何なる道を通つて這入るかと云へば、隨分此傳染病の人間の身体に這入るにハ、色々な道を通つてやつて來る。譬へば呼吸器〔呼吸と云ふのハ口から氣管支それから肺臓呼吸をする凡ての道具〕夫から消化器〔消化器と云ふは口から食道それから胃それから腸と云ふやうに飯を食つて食物の通る方の道具〕であります即ち其消化器の方へ食物と一緒になつて、さうして參りまそのもあり、又呼吸器から空氣と共に這入て往て肺臓の方からして病毒に感ずるのもあります

。然るに疱瘡と云ふものは、能く取調べて、見ると、消化器から決して來ないもので、疱瘡を病んだ病人の、膿や或は「カサブタ」を取つて動物に喰せて見る即ち犬じやとか猫じやとか云ふ動物に食せて見ても一向感じません、食物に依ては、病毒に感じないと云ふことは、動物ハ試驗に依て明めてあります。けれども呼吸に依て此氣管の方からして、病毒を息で吸ひ込して天然痘に罹かる如しは、今まで歴史に澤山あります。それだからして病毒が人間の身体に這入て來るのは、呼吸器に依て身体の中に這入て來ると云ふ事ハ今日皆人の信ずる所であります。されは益々天然痘を、豫防する事に就ては、恐れを抱かなければならぬと云ふことは明かであります。虎列剌の如きものは、食物によつて重に來るものであらますするのらして、斯う云ふ事なら其時分に、甚だた物を食ふとか生のものを食はぬとかして食物を節

しさへすれば宜しう御座いますけれども疱瘡の如きに空氣を呼吸で吸ひ込む時を極つた以上は、人間は、到底片時も息をせず、片時も空氣を吸はない譯に往かない人間で御座いますからどうも實に病毒が、呼吸に依て身体の中に這入つて來るを極つた己上は、甚だ心配であります、况して空氣の中に病毒が有つてそれも、極く々々少さくして顯微鏡の力を仮りて見るも、容易に視るほどの出來た小さな蟲であるからして、是は恐るゝものであると云ふて見分ける事が出來ません故、尚更らの事であらうと思ひます扨て先づ只今まで申したのは、一般の人間が天然痘に對する所の詳細を申たのでありますが、此世の中には天然痘に罹り易い所の人が隨分あります當り、前の人は一体に天然痘に罹るのでありますけれども、其中に最も罹り易い所の性質を具へたる人がありますそれはどんなものかと、申しますと、御婦人の中で云ふて見れも、姙娠をして居る姙婦姙娠中の御婦人方は疱瘡に罹り易い、是は婦人衛生會杯で注意しなければならぬ點と思ひます。姙娠をして、居る御婦人は疱瘡に罹り易い許りでなくして、一朝疱瘡に罹れば最も重い所の出血性の重い疱瘡にかゝる性質を持て居ります。それたからして、斯くの如き御婦人はほうそうの流行する時分には罹からぬ前から注意を加へなければならない。

夫から第二に注意しなければならぬ人は酒を飲む人、平生大變に大酒を飲む所の人は、疱瘡に罹り易い又かゝれば重い所疱瘡に罹かると云ふ例がありますからして、斯う云ふ人も注意しなければならぬ夫れから第三には虚弱の人平生弱く、病氣に罹り易い所の人は矢張り疱瘡に罹り、易い罹れば重い所の疱瘡になる故、斯う云ふ人も注意しなければならぬ夫れから第四には回復期の人、病氣に一旦罹つて癒

り際の人やつと、今日世間に顔出しをする如き人ハ、折角前の病氣が癒つて世の中に出得ると云ふ所で、天然痘に罹ることがある、若し疱瘡に罹れば又た重い所の疱瘡に罹かるから、斯る人ハ先づ折角病氣か癒つても、未だ癒つたとハせずして暫らく充分な養生をしなければなりませぬ、只今申した四つの種類の人ハ、就中疱瘡に罹り易い性質を持て居るから、格段に注意をしなければなりませぬが、併しながら疱瘡と云ふものは決してより嫌ひをするのではありません、如何なる人にも取附く所の病氣だからして、一般の人が勿論注意しなければならぬものであります。扨て疱瘡と云ふものは年齢に關係があるか、隨分子供に能く附いて老年にハ附かぬとか云ふ樣な事を世間の人も言いますが、實際さう云ふ事があるか、即ち年齢と如何なる關係があるかと調べて見ますると、決して年齢とは關係はありませぬ。先づ子供から申しますると妊娠中である母の胎中に居る所の子供も矢張り疱瘡に罹る今妊娠中の母の胎中にをる子供が、疱瘡に罹るとすれバ、墮胎をするか或は早產、月充たずして產とするか致して、多分の子供ハ死ますけれども幸に死を免れて產をすることがありますが、其時分に疱瘡のがさぶたを持つたり、或ハ疱瘡の水ぶくれを持つて來る子供があります、母の胎内に居る中から疱瘡に罹りそれから、一歳の子供二才の子供皆疱瘡がやつて、來ます、夫から年を老た後は八十になつても九十になつても、疱瘡が來る事があります、夫故に決して年齢には關係致しませぬ。併し近來は難有ひ事にハ種痘と云ふ法が行ハれてさうして、子供の時分に皆種痘をするから其後ハ疱瘡には罹らない性質になつて仕舞ますからして、年を老つた人は、先づ大概種痘或ハ天然痘を終ハりた人であるから疱瘡になる者少なく、種痘をしな

い子供の中に天然痘をすることが多くあります、是れ唯だ種痘の爲めにそうなつたので、天然痘に罹らならぬと云ふ次第ではありません。

然らば地理と如何なる關係が有るか、地理即ち土地です、此土地と天然痘の關係はどうかと能く調べて見ると、是も一向關係はありません、假令歐羅巴でも亞細亞でも、亞米利加でも亞非利加でも、何れの土地も皆疱瘡はあるのであります、何處の人でも皆此疱瘡には同じ樣に罹ります、併しながら唯人種の違ひは少しくある樣に思はれます、歐羅巴人の調べた成績に依れば「クロンボ」即ち黑人種は白哲人種より余計に罹る樣な關係があるから人種には、多少關係があるかも知れませんけれども先づ大なる差異はありません。夫れだから又氣候や何かも一向關係はない、春夏秋冬始終あるものでありますけれども、從來流行した時を、能く調べて見ますれば、夏や秋の熱い時よりも冬の寒い時が多い日本で今流行して居るのと以前に流行した時と格別違はぬ樣に思はれます、矢張り寒い時の方が余計あります。扨て以上申上げたのは天然痘が人間に及ぼす、人間と天然痘との關係を大体に就て申上たので御座いますが、是から天然痘と云ふものはどんなものであると云ふ事を鳥渡申上げます、此天然痘と云ふものを委しく說明するには、中々六ケ敷い事で、大變種類もありますし又是と關係ある病氣抔も澤山ありますから、それをば一々申上げる事は五月蠅い樣でもありますし、又申上げた所が必要はなく、醫者ならば隨分其詳細い所も氣を附けて病人を診て、是は疱瘡で無いとか或は又疱瘡であるとか云ふ事を診斷し、或は治療しなければなりません故に、如何にしても醫者は委しい事を知つて居らなければならぬけれども左なくして、唯だ衛生の目的の果すには病氣の事を其樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に委しく知りませんでも宜しい、併しながら其大体を知つて居ると否とは衛生上に餘程の關係があるから、今其大体を申して置かうと思ひます。

何故必要かと申しますれば、疱瘡と云ふものは斯う云ふ者であると云ふ事も知つて居ると、自分の若し天然痘に罹つたならば、直きに是れは疱瘡であると云ふ注意を起し、又疱瘡でなくとも疱瘡らしい病氣が起つて來たならば、是れ能く疱瘡に似て居る、烏渡寒冒のやうにはあるけれども、早く醫者に診て貰はなければならぬと云ふ注意を惹起す丈けが必要であります。日本抔では大變重い窒扶斯に罹つても、又大變重い天然痘に罹つても、是はなあに風邪だなと云ふて、兎角葛根湯位を飲して、素人考へで重ひものを輕く見て知らず、識らず大害に陥る事があるからしてさう、云ふ事を防ぐ爲めに疱瘡と云ふものはさう云ふ病氣であつて、さう云ふ工合ゝ人間の身体に這入るものであるかと云ふ事等を知つて居るのから大變必要であらうと思ひます。扨て此疱瘡と云ふものはさう、云ふ風に始まつて來るかと云へば、始めは矢張り寒冒や何かと同じやうなもので、疱瘡にかかつて十日か十四五日の間は先づ格別變りはない、潜伏期と名附けて、仮令は今日疱瘡の病人の所に往きて空氣を吸つて來て、疱瘡になる、なつてから十日乃至十四五日間位い潜伏期と云つて身体の中に潜んで居る、其間は間んともないが唯寒氣がするとか頭痛がするとか或は身体がだるいとか或は食物が旨くないとか、斯う云ふ風に極僅かの事が有る、斗りで、一向其外には何んとも無い、病氣に感じて十四五日は斯う云ふ有様なる故、大概皆天然痘にかゝつて居ると云ふ考へを起そ人は無くして、寒冒位の調子ですまして居らうと思ひます、寒氣がする身体がだるい、御飯がまづい、夫れから十四五日經

つて後に今度は本統の病氣らしくなつて來る、其時は始めて震ひ出して來る、汚寒戰栗と醫者の方でい云ふがたゝ震ひ出して、後に熱が四十度位ゐに高くなつて來る、寒くつて震ひ出してさうして熱くなつて熱が四十度位に昇つて、夫れから先驅期となつて熱が出て二三日も經つて身体中にずつと赤い腫物が出て來る、始めは決して其腫物は膿の付いた腫物ではない、其時分に出來るのは方々が赤くなるので、紅斑が出來る、紅い斑の腫物が出來る、夫れから其期が濟みまして後に始めて發疹期と云ふ期に移つて、身体中の殊に顔とかそれから腹部とか云ふ樣な所にずつと、皮膚から高くなつた腫物が出來て、其皮膚からして膿が破れて、仕舞ひにはかさぶたになつてそれが落るのであります、さう云ふ風に經過致して、始め感じてより四週間乃至六週間も經つて病氣が癒る、さう云ふ病氣なんです、是が當り前の病氣の經過でありますが、其間に色々の余病がやつて來る、其余病は皆恐ろしいのでありまして、則ち其一二を申せば眼病、疱瘡の爲めに眼が潰れたり或ハ又咽頭、咽喉に腫物が出來て腫をてさうして、飯か通らなくなつたり或ハ耳の方に及ぼして耳が聞へなくなつて。來るそれから、氣管支加答兒が起つて咳嗽が始終出たりすると云ふやうに、澤山の合併症……俗に云ふ「もつれ」が色々起つて來て夫が爲めに生命を取られる人もあり、或ハ又不具者になるやうな事が澤山起つて來ます、殊に御婦人は平生健康な人でも此病氣に罹りますると、月經が不定になりて、不規則になつて來て、大變量が殖へて夫れが爲めに追々身体が弱つたりする、又先きに申した妊娠中の御婦人であつたならば多數の人は皆墮胎を致して、子供が死んで月滿たざる中に出て仕舞ふ、又分娩前の人であつたならば早産を致すとか、或は已に

天然痘に罹つた子供を生むとか、色々の事がやつて來ます、夫だのらして啻に一身を害するのみならず、未だ世の中に出て來ない子供に迄も其恐るべき害を及ぼしますから、手術が出來ますものあらで手術を盡して、天然痘に罹からぬやうにしなければならぬであります。夫れから天然痘に罹つて癒つた跡はどうかと言へば、幸ひにして生命を取られずに癒つたとするも跡は此皮膚に腫物の一旦出來た所は、肉がそれ丈け取れて仕舞つて耗つて仕舞ひ、癒つた跡は品物が少なくなつたものだから、外から其皮膚を引張つて補ふやうな譯になつて來るから瘢痕收縮と云ふものを起して、皮膚に「ヒキツリ」が出來る、夫れだから眼の所に疱瘡が出來て、眼の「ヒキブレ」が出來、又鼻に出來れば鼻がふさがつて息が出來なくなるとか、或は咽喉に出來れも咽喉が狹くなると云ふ樣に、品物が直ぐに少くなつて、其跡はひつ張り合して癒ほるものであるから癒つた跡が見惡くなつて、啻に見惡くなるのみならず、療治をして形を造らなければならぬと云ふ場合に立至る事がありますから、どうも癒つても大變不都合のものであります、夫れで先づ大体の事を申上げて置きましたからもう無論疱瘡と云ふものは恐しいものである、又合併症が來たつて病氣が重くなると云ふことも明かになりましたから、是から豫防法の事に就て少しく申し上げやうと思ひます、扨て此疱瘡を豫防する、疱瘡に罹からぬやうに工夫をするには、二通りの規則があります一は。自分の身体を疱瘡に罹からぬやうに、免疫質即ち病氣を免れる質にする、自分の身体を病氣に罹からぬやうにするのが一つの方法、それから第二には患者から遠ざかる事、患者と離れて仕舞ふと云ふの此二つが豫防に一番大切でありますそれで、先づ第一の方から申しますが、自分の身体

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を病氣に罹らぬやうに免疫質にすると云ふのは、如何にしたら宜しいかと申しまするに、外の傳染病でも今まで工夫をして居るが、未だ病氣に罹らぬやうにしたる事は今日の所ではない、昨年當々世の中の問題になつた、獨逸國の「コッホ」と云ふ人が「ッペルクリン」と云ふ藥を發見して、人間をして結核に罹らないやうに致す事を工夫し、此事の世の中に知れたる故、吾々も狂人の如くになつて其藥を試みたがどうも、旨く往かなかつた、どうの傳染病に罹らぬやうにする事を發明すれば、大變に價値のある事ですから、世人は擧つて其事を研究して居るのであります、擧つて研究して居るのであるけれども中々六ケ敷いので、折角宜いと思ふても外の人がやつて見れば思ひの外いけない則ち「コッホ」先生の結核に罹らぬ様にすると云ふ事も、今日では未だ充分に信用を置く事は出來ません夫れから、又日本から往て居る北里と云ふ人が破傷風と云ふ病に動物が罹らんやうにすることを發見しましたが是も隨分立派な仕事であるから、何時しか目的を十分に達しましようが未だ、我々人間に試みて宜いと云ふまでには達しませんが。又日本の緒方博士も是と同じやうな仕事をして、脾脱疽と云ふ病氣が動物にはあります、此脾脱疽に動物が罹らぬやうにしたいと云ふ事で、是も昨年報告はしたが、是も人間にやつて見やうと云ふ事までには至りません、微菌學者或は衛生學者は、學問上の力を以て、動物或は人間と病毒に罹らぬやうに、致したいと云ふて、充分に其事に骨を折てやつて居るから今日では追々其端緒を開いて來るが、今の所では充分に往きません、吾々は衛生に熱心なる所のさう云ふ人には十分の力を添へて早く目的を達せしむるやうにしたならば、傳染病に罹る事なく、枕を高くして安眠するを得るやうになる

かも知れないから我々は充分に其人々を奬勵てやうと思ふのであります、併しながら幸ひにして天然痘斗りは、今日はもう研究の時代ではなくして、其研究を遂げ得た所の時代になつて居るのであります。天然痘は人間の身体及び動物の身体を、病氣に罹らぬやうにする事は出來て居るので御座います、夫れは英國のセンナルと云ふ有名の先生が、色々研究して、極く弱くなつた所の疱瘡の毒を人間の身体に移してさうして、極く弱い所の疱瘡を人間の身体に起させると、其次に強い病毒が來ても人間の身体に疱瘡を起さぬと云ふ事を充分に証明してそれが、爲めに牛に種痘をしたり抔してさうして、之に出來た所の病毒のある膿を、人間の身体、一局部に植ゑたならば、其人間は一体に疱瘡に罹つた事になるから、一旦疱瘡に罹れば再び罹らない性質の者であるから、再び強い疱瘡に罹らぬと云ふ工夫をして見た所が、其成蹟が大變宜いからして今日では世界中一体に種痘をするとゝなりそれよりして天然痘に罹るものが少くなつた、是れ全く（センナル）と云ふ人が種痘を考へてさうしてそれを、世界に擴め、或は政府の許可を以て勸めたり或は互に協議を遂げて種痘をしなければならぬと云ふやうな工夫にしたり致して世の中に種痘が流行したる爲めに、全く天然痘が少くなつたのであります何故人間の身体が種痘をすれば天然痘に罹らなくなるかと云ふ理屈は隨分六ケ敷い理屈があるのらして、此處で委しく私は申しません。併し御知りになりたければ場合に依て申しても宜しいが余り學問上に渉るから申しません。兎に角只今申したやうな工合に、弱い所の病毒を植ゑて、一旦弱い疱瘡にして置くと再び強い病毒が來ても、夫に罹ると云ふ事はないと云ふのが、一の原理であります併しそれならば一旦種痘をした人はいつまで

天然痘に罹ることとれないかと云へば、决してそうではない、隨分塲合に依ると種痘を致しましても又後に強い所の天然痘に罹る事も隨分あります、啻に種痘をした後に罹る計りじやなくして、本統の天然痘をした人でも、其後度々天然痘に罹る事も隨分あります、醫學の歷史を調べて見れば、天然痘に前後六回續けて罹つたと云ふ事があります、故に一旦本統の天然痘をしたからして再び天然痘に罹かる事はないと云つて安心する事は出來ませぬ本統の天然痘をしても、隨分又罹る事があります、故に種痘をしたとても尙更の事安心が出來ない、種痘をしても再び罹る事が隨分ありますけれどもそれは、千萬人中の一であつて、歷史上尋ねてやつと一人か二人位きり見當りませんから、實に鮮少なる者で、先づは本統の天然痘をした人は再び罹ることは無いと同じやうに一度種痘をしたものは本統の天然痘に罹る事は無いと信仰しても、過ちは無いと思います、併しながら本統の天然痘の方は、一度其病毒に罹つたのだから、其方は病毒を免れる力は永く保つて居るけれども、種痘の方は始め疱瘡を植ゑて其年は大變免かれるゝ事は出來るが年々其病氣に罹らぬ力は強い、其次の年も天然痘が流行て來ても免かるゝ事は出來るが、年々其病氣に罹らぬ力が弱くなつて參ります、夫れ故に子供の時分一旦植ゑた計りで、何時迄も疱瘡に罹らぬと思ふて居つたならば、大變當が違ひます、一旦植ゑても、年々に疱瘡を防ぐ力が弱くあると云ふ事を考へなければならぬ。歐羅巴抔は國々で大變違ひますけれども、十年目には必ず一度は植ゑなければならぬと云ふやうに云ふて居る人もあり、或は、七年目に一度植ゑなければならぬと云ふものもあつて、年限に依て差はあるが、兎に角に三回必ず繰返して、反覆種痘をしなければならぬと云ふ

事は、皆言つて有ります、故に天然痘の流行しない時でも、十年に一度位は植え替へて往けば誠に安心のものでありますが、若し其間に今年の如く天然痘が流行して、向ふの人も疱瘡に罹たとか或は隣家の人も罹つたとか云ふ有様に、世の中に此病氣が殖ゑて來た時は、假令十年經ふが經つまいが、三年目でも或は四年目でも、皆種痘として見て、付けば好し付かなくも好し　兎に角一旦は疱瘡を植ゑると云ふ事を怠つては甚だ不安心であります、折角「ゼンネル」と云ふ人が工夫して、種痘をして天然痘に罹からぬやうにしてやるぞよと云ふ事を、學問上苦心して來たにも、拘らず、一向之を守らずして自ら天然痘を流行させると云ふのは、實に日本の不名譽でありますから、責めて罹らぬ所の人は、是から先きも皆種痘を致してさうして、天然痘に罹らぬやうに工夫を繞らさなければなりませぬ。

次に第二の豫防法に移りますが、第二の豫防法と云ふのは、病人に遠ると云ふ事であります、前にも此傳染する事に就て申したる通りに、疱瘡と云ふものは、人間の呼吸に依て身体の中に這入つて來る、又其病人の周圍に在る器械だとの、或は着物と云ふやうなものに附着してさうして、傳つて來るさう云ふ病でありますからして、勿論病人に近づいて其側に永く居れば、其病毒を空氣から吸ひ取る事もありませうし、又自分の着物に附けて來て、間接に着物から、自分の身体に取込む事があるから、どうしても此病人があつたならばそれと、遠ざかる工夫をしなければ、ならぬ、之に遠かるにはどうも仕方がないからして、病人と云ふものを社會即ち世の中が一般に協議を致して、避病院と云ふものが出來て居るからして、同じ府下に住つて居る人ならば必ず其避病院に送る丈けの權利があるからして、其避病院にや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて貰ふが宜しう御座います、既に己の家に一の病人が出來れば、其病人の不幸耳ならず、外の人にも傳つたならば大變に　氣の毒な事が起るから、寧ろ其病人丈には氣の毒だけれども、自から遠かつて避病院で治療させる事にして、余り夫れに立ちさわらんやうにするのが、世の中に對する義務を守つたと云ふものであります。若自分の家で養生しなければならぬと云ふ必要があつたならば、先づ之を扱ふ人を一人極めて置いてさうして、其人斗りに任せて、外の人は誰も這入つて仕事をすることの出來ない樣にする。皆が病毒を自分の身体に取ると云ふ恐れがあるから、一人看病する所の人を極めて置いてさせるか宜しい。夫れから又病人の着類、或は器械等をちやんと、定めて於て、出來得る丈けの手段を盡し、醫者に聞いて充分に醫者の命令通りに消毒をして、病毒を其處に置かないやうに致さなければならぬ、又町の中や何かに病人が有つた時は障子とか或は窓とか開放して、隨分病人の居る所の部屋は臭くなるから空氣の流通を能くさせなければならぬと云ふ、障子或は窓を開放ち。又部屋をあかるくして所のぬと病人の爲めに惡るいからと云つて、醫者が命じて左樣に致させます事がありますが、併しながら此空氣に依て傳染する所の疱瘡に限つては、斯樣な事をしてはなりませぬ。若しも病人の居る部屋の空氣を外部に出す時は、其近邊に病毒を撒布するのと同じだから。若し自分の家で夫を養生させて看護してやらうと云ふ時にはすつかり、其部屋を閉ぢ籠めて仕舞つて、其中で充分に手當を致すが宜しう御座います、窓を開ける時は、近處近邊の健康の人々にも病毒を感せしめるやうな事が有るから、斯う云ふやうな事は成るべくさけるが宜しい夫れに、就ても中々、傳染病者を扱ふ事は、隨分六ケ敷い事があるか

ら、専門の避病院に預けるのが、一番簡略で宜しいと思ひます。

さう云ふ風に致して自から病人に遠ざかり、又自分の身体は種痘を致し以て病毒に罹らぬやうにしたなれば、必らず天然痘に罹るやうな事はないから安全であります、若し不幸にして罹つたならば醫者に罹つて……先きに申した所の怪しい病氣に罹つたならば、早く醫者に診て貰つて、それ〳〵所置を致した方が宜しい、今日の醫者なれば、無暗に眼を潰したり、或は耳を害ふたりするやうな事はせず、各々助ける丈けの手當が致してありますから、早く醫者に罹るのが宜しいので御座います。（完）

本會録事

◎一月例會　一月九日第二土曜日午後一時より麹町區一番町十二番地本會附屬保育園内に於て例會を開く出席員大凡四十五六名にして加藤弘之君長與專齋君朝山義六君（慣習と經濟と衛生の敵）の講演ありしが終りて福引の餘興あり會員一同に茶菓を呈し散會を告げしは午後五時なりき、

◎二月例會　二月六日第一土曜日午後一時より麹町區一番町十二番地保育園内に於て例會を開く當日醫學博士濱田玄達君出演せらるゝの豫期なりしが遽に公用を以て地方へ出立せられたるに付欠席の旨申越されたるが醫學士岡田和一郎君目下適切なる天然痘の豫防法に就き頗る有益なる講演あり終つて午後四時散會せり當日出席の會員大凡四十五六名なりき、

◎謹告

◎濃尾震災義捐に就ては已に前號雜誌に登載したる如く諸君姉の義金を以て鰹節及ミルク罐詰調達の上本會第貳回義捐として岐阜縣廳宛根尾谷救済支

部へ其送附方を依頼せしが同縣知事よりは左の謝狀及領收証を送られたり

小崎岐阜縣知事よりの謝狀寫

過般縣下未曾有之大震ニ付罹災負傷者幷に流行病感染者一般へ爲救助左記ノ物品御惠贈相成深く感謝之に不堪候右至ハ早速配與取計可申候將又義捐有志者へハ乍御手數宜シク御致聲被下度此段不取敢御挨拶旁申進候也

明治廿五年一月卅一日　小崎岐阜縣知事

大日本婦人衞生會
會長　加藤鈴子殿

記

一ミルク　九十六鑵
一鰹節　四百本

◎同縣廳に右本會救與物品を直ちに根尾谷村見震災救濟支部へ送附せられたるが同支部に於ては目下慘狀の甚だしき大野郡西根谷村及本巣郡板屋村同郡長峯村等各役場へ配布し夫れ〳〵救與せられたりと何れも本會各位の恩惠を感謝せざるものなく長峯村々長村瀨氏の如きは根尾谷人民惣代として去る十八日態々出京の上左の鄭重なる謝狀を贈られ且同地震災慘狀の寫眞畫帖寄附せられたり同寫眞は一々氏の說明あるを以て坐して現場を視察するの思ひあり今其題目を擧ぐれば第一圖、根尾谷能鄕村白山圖、第二、能鄕藤谷口陷落圖、第三、鄕社白山神社全潰圖、第四、能鄕小學校全潰圖、第五、天神堂村全潰圖、第六、長嶺村棚田缺損圖、第七　長嶺崩壞圖、第八、越卒村全潰及地盤變換圖、第九、中村道路地盤陷落圖、第十、春日神社境內社木傾倒圖、第十一、大野郡水鳥村浦水圖、第十二（其二）、第十三水鳥村西光寺全潰圖、第十四、水鳥村大陷落民家埋沒圖、第十五、（前號の續）、第十六、（全上）第十七、本巣郡金原村反眞野坂圖、長良岐阜市木町　七間町、高宮、北方町、大垣、（其二）竹ケ鼻、笠松等にして皆極鮮明

に撮影したるものなり右は毎會々場へ持參し各位の御覧に供ふべし。

岐阜縣根尾谷村長よりの謝状

昨年十月古今未曾有ノ大震災濃尾ノ地ニ起ルヤ我根尾谷其震源ニ當リ山岳裂ケ丘陵沈ミ家屋悉ク粉砕シ死傷算ナシ而シテ道路ハ全ク壅塞シ水流ハ悉ク遮断セラレテ他地方トノ交通俄ニ絶ヘ深山絶壁ノ別天地唯苦痛ニ號叫スルモノ飢寒ニ呻吟スルモノト相顧ミテ悽惋死ノ至ルヲ待ツノミ此時ニ當リ貴會深ク我々ノ慘状ヲ遠察シ災餘ノ生命ヲ維グニ最モ急要ナル滋養物ヲ恵與セラル期死ノ窮民依テ以テ生氣ヲ回復シ今ヤ漸ク蘇テ前途ノ計ヲ爲スニ至リタルモノ實ニ貴會ノ救恤ニ依ルヲ多シトス是レ我地方人民一同ノ深ク肝肺ニ銘シ感謝シ措カザル所ナリ玆ニ清直根尾谷人民一同ニ代リ謹ンデ謝恩ノ微意ヲ表ス謹言ス

岐阜縣美濃國本巣郡根尾谷
人民惣代　村瀬清直

明治廿五年二月廿八日

日本婦人衛生會會長加藤鈴子殿

寄附

◎去る十二月地方會員山本糺子より金壹圓寄附せらる

◎一月例會開會の節會長加藤鈴子副會長濱尾作子兩氏よりビール蜜柑及滋養煎餅等寄附せられたり

◎二月中入會者左の如し（姓名御申込順）

通常會員

○濱尾副會長の照介により

一加藤つる子　麹町區一番町十四番地

一木下つね子　小石川區表町五十六番地

○椿幹事の照介により

一渡邊よね子　日本橋區南茅場町四十九番地

○地方會平川りう之子の照介により

一渡邊たけ子　秋田縣北秋田郡扇田村

一長尾とく子　同縣同郡西館村

○評議員加藤常子の照會により

一富岡けい子　麹町區上二番町二番地

一山口稲子　麹町區五番町十番地

○二月中轉居

一小田まつ子　對洲竹敷海軍官舍第一號へ

一柴ゆき子　牛込區藥王寺前町五十二番地へ

明治産婆看病學校規程

第一章 學則

第一條 本校の目的は產婆及ひ看護婦の速成を計るにあり故に學則を第一項第二項に分ち其要領を教授す

第一項 看病學

脩學期限を一ヶ年とし之を二學期に分り其課程左の如し

第一學期
- 一解剖學
- 一生理學
- 一病理學

第二學期
- 一看病學
- 一衛生學
- 一實習

第二項 產婆學

脩學期限を十ヶ月とし之を二學期に分つ其課程左の如し

第一學期
- 一解剖學
- 一生理學
- 一產婆學

第二學期
- 一產科用摸型演習
- 一臨床實撿

第二條 本校ハ二學を同時に兼脩せしべきも既に產婆學卒業のものにして新に看病學のみを脩めんと欲する者又は看病卒業のものにして產婆學のみを脩めんと欲するものハ彼ハ十ヶ月此ハ六ヶ月にて卒業せしむべし

第三條 每學期の終りに試撿をなし卒業証書を與ふべし

第四條 授業は一月八日に始め十二月廿七日に終る。大祭日。祝日及日曜日を休暇とす

第二章 校則

第五條 入學を請ふものは東京市内に住居する者を以て証人となし左の雛形に準し在學証書を差出すべし

在學証書雛形　用紙美濃全紙

何市縣何郡區何町村何番地

印紙

姓　　名

何年何月生

右之者看病學或ハ產婆學爲脩業入學爲致候上は校則等堅く可爲相守は勿論本人の識に付一切引受可申候也

東京市何區何町何華士族平民

年　月　日

右証人姓　名實印

明治産婆看病學校幹事御中

第六條 本校は元來博愛の趣旨より成るが故に束脩及授業料を要せずただ講堂費として一ヶ月金三拾錢を申受くべし

但し二學兼脩のものは講堂費一ヶ月金五拾錢を納むべし

第七條 講堂費は每月五日までに該月分を徵す新入學生は入學の卽日在學証書と與に該月分の講堂費を納むべし

第八條 本校生徒たらんと欲するものは体格强壯年

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

齡十八年以上の婦人にして特に品行の方正なるものに限る

第九條　本校生徒は校の内外を問はず常に相敬愛を旨とし謹慎能く其德を脩むべし若し婦德を破るの言行あるときは之を保証人に通知し直に退學せしむべし

第十條　生徒事故疾病ありて退學又は休學せんと欲するときは保証人より欠席届又は退學願書を其在學の月末までに差出すべし

明治廿四年十月

東京市日本橋區濱町二丁目十七番地

明治産婆看病學校

講義の傍聽を望まるゝ篤志の方は幹事の許可を得て參校せらるべし

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員　太田いく子　鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京麹町區三番町六十七番地　巖本善治

印刷人　東京麹町區上三番町十八番地　八木吉六

（遞信省認可）